

<秋の取り組み第2弾>

軍事費削減・自衛隊の海外派兵は許さない！

—新聞意見広告掲載を成功させよう—

10月18日第4回常任理事会が開催（15名）され、秋の取り組みの中間的まとめと後半の具体化について討議しました。以下、主な点について報告します。

1. 時局がらみの宣伝に効果100%の全県一斉宣伝行動

(1) 解散・総選挙の声が叫ばれるなか、早めにと9月20日の県央ブロックを皮切りに県南1（石岡・土浦・阿見）・鹿行ブロックが4台の宣伝カーで実施しました。県南2（取手中心）・県西1（筑西中心）・県西2（古河中心）は後発組として行います。

(2) チラシの出来ばえについては、大変好評だった。全体的には2万枚程、地域・新聞折り込み等で配付。今後、まだ活用していない平和委員会は力量に応じて新聞折り込みや手渡しで500～1000枚でも活用する事にします。また、労組や民主団体にも働きかけて出来るだけ利用してもらいます。

2. 必ず成功させよう「意見広告」の取り組み

(1) 朝日新聞、12月8日を予定。内容は「軍事費削減・自衛隊の海外派兵反対」を中心とします。選挙目当てにバラマキ事業を自公・民主争っていますが、その財源収入について、マスコミも含めて軍事費を削る事には一言も言及していないのが現在の政治の異常さです。それがなぜなのかを県民にアピールする事にします。

(2) 賛同の目標は個人・1300名、団体100名です。各平和委員会の目標は昨年実績プラスαとします。選挙活動と重なることが予想されます。出来る限り早めに話し合って目標実現のためご奮闘をお願いします。掲載要領は右の欄に掲載。

3. 活動の土台に学習運動を位置づけよう。

(1) 生活や権利要求実現の団体と違って、平和を求める運動

団体は他団体とは違った意味で学習運動がより強く求められます。大会方針では、自前学習会を活発にしていく方針が打ち出されており、その具体化が急がれています。

(2) 常任理事会では、自前学習会が前進するために、ビデオ・DVD等の資料提供や手軽な学習資料、だれでもが気軽に参加できる学習会を学習運動委員会を中心に強めて行きます。

4. 「大きな山を動かす」気構えで仲間づくりに頑張ろう！

(1) 9月の理事会では「平和委員会の組織と力量を発展させるも後退させるも、我々自身の取り組み如何にかかっている」と提起しました。今回の常任理事会ではその具体化に踏み込み討議しました。以下は話し合われた内容を事務局長が整理しまとめました。

(1) **課題その1.** 主体的条件の確立：みんなで仲間づくりの自覚を高める話し合いをすすめよう。

- ・平和委員会の運動と組織は自分たちがやるしかない、という自覚を討議しよう。
- ・そのために平和情勢や平和運動・政治問題などを討議し、新たな決意とエネルギーを創りだそう。

(2) **課題その2.** 仲間づくりの状況作り：みんなが仲間づくりに参加できるよう知恵を出し合おう。

- ・「平和委員会に入ったら楽しい、良かった」「平和について勉強できた」と言われるような活動をさらに発展させよう。
- ・10年来、私たちはこの課題を地域・職場で平和ツアー・各種のつどい・学習会・展示会等々行い、追求してきました。これらの運動をさらに発展させる事と併せて、これからは仲間づくりの課題を意識的に行っていけるよう話し合っていく。

(3) **課題その3.** 仲間づくりの展望：「一騎当千でなくみんなですべて1歩を」

- ・いままでの反省の上に立って、方針を「下ろす」だけでなく、組織強化委員会・事務局が各平和委員会に足を運んで協力関係を作り上げていく努力をする。
- ・仲間づくりは私たちの運動のなかで最も困難な運動の分野です。各平和委員会でも来年3月までをひとつの節としてじっくり話し合ってもらおう。
- ・その間、9月の理事会で出された12月までに各平和委員会で2～5名以上の仲間づくりの方針はその実現にむけて奮闘していくものとします。

以上

朝日新聞意見広告掲載要領

1. 12月8日付、朝日新聞朝刊に掲載します。但し賛同者・団体の名前は紙面の都合で掲載できません。後日、意見広告と賛同者名・団体名の入ったものを印刷してお届けします。
2. 内容は憲法9条・軍事費削減・自衛隊の海外派兵反対等を検討します。
3. 賛同費：個人1人・1口 1000円。
団体賛同1口 3000円。
4. 第1次締め切り日：11月末日。最終締め切り：12月7日とします。
5. 申し込み先：茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281
TEL/FAX：029-251-2806へお願いします。
6. 総選挙ぶくみの状況ですので例年よりも取り組みを早めていただきたく、またこの取り組みは財政一助にもなっておりますので宜しくお願いします。

平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

No.515
月3回発行
2008.10.25



続き：関東ブロック交流会議報告 神奈川役員を先頭に 仲間作り 1,000名目指す

常任理事 加藤 岑生

新原さんの講演が終わってから、日平千坂事務局長から秋の平和運動と総選挙—危険な日米軍事同盟強化勢力に平和の審判を下そう—と題する問題提起がありました。

その提起を踏まえ各県からの特に米軍基地と自衛隊基地をめぐる日米軍再編の動きについて報告がありました。

仲間作りでは、何といっても原子力空母の母港化反対と座間の米軍司令部移転反対闘いが大きく盛り上がる中で大きな成果をあげた、という意気上がる報告がありました。この闘いを発展させるために、前大会（2007年10月13日）目標の700名に対し、9月28日に開かれた大会で101名を超え801名に拡大しました。そして来年の大会までに1000名の仲間作りに取り組んでいる。この取り組みの特徴は、菊谷理事長が一人で79名もの仲間を拡大したように、役員が先頭に立ち切り開いたこと、各地域で泊まり込み交流会などの総会を開き、全ての地区で拡大の成果をあげたことでした。

他の県からの報告では仲間作りに関して、新しい組織作りに取り組んでいてなかなか進まない悩みが率直に出されました。どこの組織でも高齢化が進んでいる現状が話され、若者への拡大と運動を引き継ぐ人を作り出すことが焦眉の急であることが話されました。

振り返って茨城県平和委員会の現状と取り組みはどうだろうか？近日に開かれる常任理事会での議論にゆずります。

特に日本の中でこの首都圏での仲間作り運動の先頭に立つことは関東一円の米軍・自衛隊基地の強化に反対する重要な課題でもあり、関東は一つを合言葉に取り組むことに特別の意義があると確認されました。

最後に、座間市長選で「変えよう！基地の街からひまわりの街へ」を合言葉に全国の仲間から支援を受け戦争司令部・基地強化ノーを掲げ闘った鴨居さんからお礼と今後の戦いの決意の挨拶がありました。鴨居さんは、「この会場に来て今後の闘いに勇気と確信をいただき、大いに励まされ、明るい気持ちになった」と感想を述べていました。

読書の秋：書籍紹介

戦争犯罪の構造

—日本軍はなぜ民間人を殺したのか—

田中 利幸編

大月書店 定価3600円



本書は、広島市立大学平和研究所の主催による研究プロジェクト「市民に対する軍暴力—比較的研究」(2002年から2004年)の研究成果をまとめた報告書である。①日清戦争における日本軍の住民への加害、②抗日義兵闘争と膺懲的討伐、③アムール州イヴァノフス力村の「過激派大討伐」、④南京大虐殺事件、⑤中国雲南省に見る日本軍の住民虐殺、⑥シンガポール華僑虐殺⑦抑留者虐殺とその責任問題、⑧占領地民衆に対する大本営の認識の報告、の8つのテーマを編集したものである。結論の報告として「偽りの近代からくる不安を克服するために—日本軍人と今日の日本人—が論じられている。本書の編集の目的は「日本軍が明治時代初期に創設して以後間も無くからアジア太平洋戦争終了までに犯したさまざまな市民虐殺ケースについて……その背景の分析を試み、さらには日本軍全体の「市民観」を検討することによって……日本軍暴力の特徴を浮かび上がらせる」ことである。

この本は東京で開かれた9条の会が主催した憲法学習講座への参加の折、会場で手に入れたものである。私は今まで、主に戦争被害といえば、日立市の艦砲射撃の被害とか、イラク湾岸戦争、沖縄の戦争被害、広島・長崎の原爆被災などの

写真展など通して、また満蒙開拓団の悲劇を身近な人から聞き、悲惨だな—と感じ決してこのようなことを繰り返してはならないと思ってきた。

日本軍の加害・残虐行為の実相については、日本軍がアジアの市民に対し残虐な行為を731部隊とか、映画「南京1937」とかで知っていた。しかし、このような残虐行為は「戦争だから仕方がなかった。戦争は人間を狂気にさせるから」とそれ以上の考えを進めていなかった。戦争を繰り返してはならないし、だから平和を守ることが大切でそのための運動をしているのだが、アジア・特に中国や朝鮮の人たちに済まない気持ちとか、日本人として謝罪の感情や劣等感を持って、逆に目を背ける感情にとらわれながら運動をしている自分があつた。

被害事実を知ること大切であるが日本軍の残虐行為の加害の歴史的事実を知ることの大切さや努力なしに日本人としての平和運動ができないのではないかと思った。このような軍隊を日本社会が生み出した事実と歴史的な反省、社会的情勢と背景、そして、軍隊組織の性状などを究明することがもっと必要ではないかという思いに駆られた。これらの事実が日本社会の常識になる用に努力する必要を感じました。

本書を紹介した理由として、平和委員会・平和の会の学習会の教本にできるのではないかと、難解なところもあるが、目を背けたい様な内容もあるがぜひ読み合わせを行い話し合っはどうかと思いました。読書の秋、如何でしょうか。

(加)

事務局便り

百年に一度の金融恐慌で米連邦準備制度理事会(FRB)のグリーンズパン元議長が自分が進めてきた投機野放しの金融政策に誤りがあつたと。麻生自公政権これに習つて自分たちが推進した規制緩和の構造改革の誤りを認めて責任を取っては。しかし、自然災害のようにいつて政治空白は認められないと。総選挙での国民の審判・国会解散先送り権力にしがみつくと。醜いぞ、往生際の悪いこと。平和運動はこの権力闘争に惑わされてはなるまいぞ。

(加)